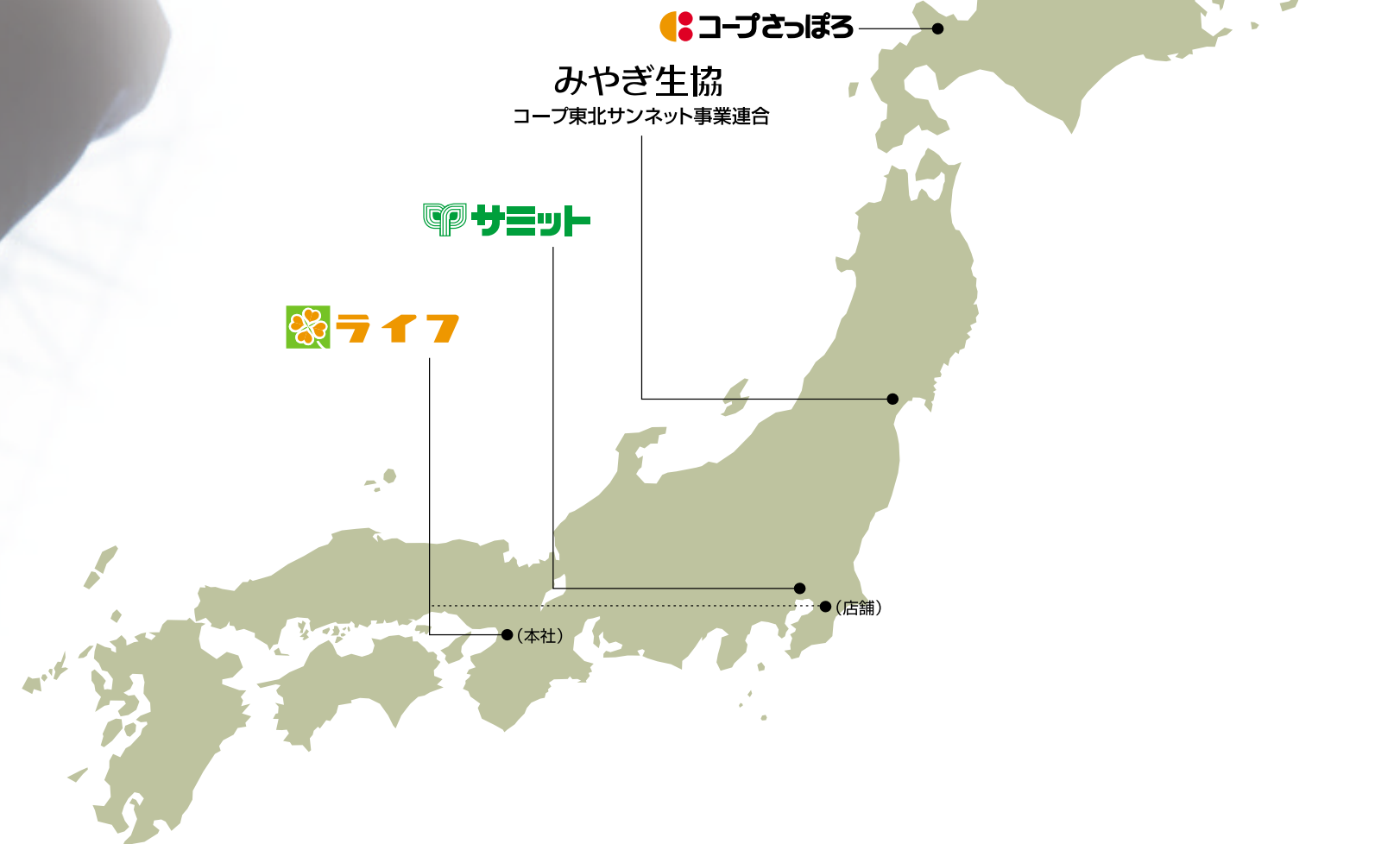


開発事業 結果

机上から現実の取り組みに移ると、初めて見えてくることや、時勢の中で変わらざるを得ない部分がありました。中でも、中国産ぎょうざ事件は国内の食の基盤を揺るがすようなニュースとして伝えられ、事件の日を境に食品を作ること、売ることの責任の所在が大きく変わったと言えます。その流れに合わせながら開発中のシステムも、より消費者目線で、より精密なトレーサビリティが行えるよう、トライアルを繰り返しながら、完成させていきました。実験終了までの結果をご紹介しますが、今後も協会として取り組みを続けていく予定です。

1 前章の計画から実行されたシステムと各機能連携体制について



本年度の開発事業では、生協、生鮮加工メーカー、加工食品メーカーなどフードチェーンへのトレーサビリティシステムの全面的普及と、広域生協と地域スーパーの地域間ネットワークで不特定多数への拡大・普及・定着を図るための連携体制作りを行いました。日本生協連、ニチリウ、その他メーカーやベンダー合わせで650社の協力の下、小売店コープさっぽろ2店舗、みやぎ生協2店舗、サミット1店舗、ライフ2店舗にて実証実験を行いました。

参加企業

小売段階／コープさっぽろ・みやぎ生活協同組合・サミット(株)・(株)ライフコーポレーション
 流通段階／日本アクセス北海道(株)・(株)ナシオ・日本流通産業(株) その他、メーカー・ベンダー
 生産段階／(株)ケイバック・(株)福山醸造
 開発参加企業／JFESシステムズ(株)・ユビキタスID(株)・東洋インキエンジニアリング(株)・(株)寺岡精工・(株)インダ・凸版印刷(株)北海道事業部・デュアルカナム(株)・東洋インキ製造(株)
 協力団体／T-Engineフォーラム・日本卵業協会・日本食品分析センター・家畜改良センター・東京大学大学院・東京海洋大学大学院・宮城大学・鹿児島大学・東京農業大学・日本生活協同組合連合会・ぎょれん・ホクレン

650社
参加

実証検討委員会

坂村 健 (座長)	T-Engineフォーラム	長坂 豊道	日本食品分析センター
大見 英明 (副座長)	日本トレーサビリティ協会	池内 豊	家畜改良センター
水野 誠	日本トレーサビリティ協会	越塚 登	東京大学大学院情報学環
河野 敏彦	みやぎ生活協同組合/コープ東北サンネット事業連合	日佐 和夫	東京海洋大学大学院
大松 重尚	日本トレーサビリティ協会	高橋 浩	宮城大学食産業学部
石垣 一之	北海道農業協同組合連合会	守田 和夫	鹿児島大学農学部
重岡 徳次	北海道漁業協同組合連合会	高野 克己	東京農業大学応用生物科学部
杉田 明	日本卵業協会	佐々木 正樹	日本生活協同組合連合会